

# オキドキニュース 五月号



二十四節季

立夏 五月六日

小満 五月二十日

夏の始まり。東洋暦では立夏から立秋前日までを夏、西洋暦では夏至から秋分の前日までとしている。  
「夏の気始めて立つ」  
植物が育ち茂る。「麦生日」と呼ばれ、晴天あれば麦がよく熟するといわれている。

## ドライブツアー

四月四日・五日の二日、日頃外出する機会が少ないので、思いっきり春を感じて頂こうと、施設送迎車を使い近隣の桜並木を観に行く「ドライブツアー」を催しました。  
今年は、開花時期と「ドライブツアー」バを予定した日が上手く重なり、車中からほぼ満開の桜を見ることができました。  
ご利用者の皆様も久しぶりの外出に大変喜んでいらっしゃいました。



## 映画鑑賞会

今回、新型コロナウイルスの影響で、外出行事を控えることになり、さらに3密を避けるために集団での行事が出来なくなりました。しかし、ご利用者の皆様に施設内でも楽しんでいただくとうと四月十一日・十二日の二日に分けて映画鑑賞会を行いました。  
当日は、地階食堂の一角にスクリーン設けて、皆様ご存知の「水戸黄門」の映像を映し出し、「視聴して頂きました」の映像を映し出しました！



## 鯉のぼりの由来

鯉のぼりは江戸時代中期、庶民のアイデアで生まれました。もともと日本では、將軍家に男の子が生まれると旗指物やのぼりを立てて祝う風習がありました。やがてこれが武家に広がり、男の子が生まれた印として幟を立てるようになりました。端午の節句には幟を立て、虫干しを兼ねて鎧や兜を飾るのが習わしでした。一方、江戸の裕福な商家でも、武家に対抗しようと武具の模造品などを飾るようになりました。

中国に伝わる竜門に鯉が滝を登りきると竜に化して天に上ると言われています。鯉は生命力が強く、出世魚とされていて、男の子の誕生と、将来の立身出世してほしいとの願いが込められています。

「わが家に男の子が生まれました。どうぞお守りください」と天の神様に伝え、守っていただく意味があるとも伝えられています。初期の鯉のぼりは、和紙で作られていましたが、その後、油紙、綿と破れにくいものへと変わり、昭和三十年代に、雨にぬれても色落ちしない合成繊維の鯉のぼりが誕生し、現在に受け継がれています。



## 【施設内床清掃のお知らせ】

左記の日時にて、清掃業者による施設内の「床清掃」「ワックス掛け」を予定しております。ご迷惑をおかけしますが、皆様のご理解ご協力をお願い致します。  
新型コロナウイルスの蔓延よつては、施設内床清掃を延期する場合がありますのであらかじめご了承ください

日時 五月三十一日(日曜日)  
作業時間 午前九時～午後四時



|               |            |  |
|---------------|------------|--|
| A班(4人)        |            |  |
| 9:00 ~ 10:00  | 地下         |  |
| 10:00 ~ 12:00 | 別館         |  |
| 13:00 ~ 16:00 | リハビリ・デイルーム |  |
|               | クリニック      |  |

|               |            |  |
|---------------|------------|--|
| B班(4人)        |            |  |
| 9:00 ~ 9:30   | 受付・相談室     |  |
| 9:30 ~ 10:00  | 東側階段       |  |
| 10:00 ~ 10:30 | 西側階段       |  |
| 10:30 ~ 13:00 | 2階共用部分・療養室 |  |
| 14:00 ~ 16:00 | 3階共用部分・療養室 |  |



## 【お知らせ】

新型コロナウイルスが世界的な流行を見せる中、東京都内での感染者数も増え、国や東京都の対策を鑑みるに、まだまだ気の抜けない状況です。そのため、5月以降につきましても引き続き『面会中止』とさせて頂いております。  
皆様には引き続きご不便・ご心配をお掛けいたしますが、何卒ご理解・ご協力をお願いできれば幸いです。



## 5月11日昼食に提



山菜そば

写真はあくまでイメージです。

## 菖蒲湯

五月一日から七日まで、「菖蒲湯」と致します。風薫る新緑の季節、雰囲気をも十分に楽しんでみてください。

## 菖蒲湯の由来

菖蒲湯とは菖蒲の葉を束ねて入れ、沸かしたお風呂のことです。5月5日の「端午の節句」の習わしです。



この菖蒲湯のため、端午の節句は「菖蒲の節句」とも言われており、入浴することで、邪気を払うとされています。

日本では、奈良時代や平安時代の宮廷で、端午の日に厄除けのため「菖蒲」「よもぎ」を軒にさしたり、菖蒲の葉の葉玉を柱に下げたと言われています。現在のように男の子の出生を祝って、端午の節句に菖蒲湯に入ることが習慣になったのは江戸時代からです。

「菖蒲」の音が「勝負」や「尚武(武事を重んじることの意味)」に通じること、また、葉の形が剣のようであることから、子どもが剛健に育つことを願ったと言われています。